

# 書 燈



## 新しい図書館

秋定 敦

内館牧子さん原作の映画『終わった人』では、図書館は高齢者が居眠りするところと描かれており、まだまだ世の中では時間のある人が暇つぶしに行くところとステレオタイプに捉えられている。

私は今年4月から再任用で中央図書館に配属されたが、それまで図書館というと、ネットワークサービス（K-lib ネット）で図書を検索し、読みたい本があれば予約をして垂水図書館で受け取るという利用をしており、もっと垂水図書館に多くの本があればわざわざ予約しなくてもすぐに借りられるのに、という利用者としての視点で、図書館は本を借りるところぐらいの認識しかなかった。

しかし、図書館に赴任したことで、今や図書館は資料の収集、保存、提供、レファレンスだけではなく、課題解決サービス、さらには街づくり賑わいづくりまで求められてきていると知った。

私の仕事は電子図書館を立ち上げたり、三宮図書館の仮移転先を探したり、新西図書館の基本計画を策定したり街づくり賑わいづくりにつながる新たな図書館を整備することである。

神戸市では、阪神・淡路大震災から23年がたち、復興・財政再建に努めた結果、順次、東灘図書館、北神図書館など公共施設への投資が進められている。

新三宮図書館は都心再整備事業に組み込まれ、2021年度に一旦仮移転を行い2025年度には現在地

(左) 梶原由佳氏講演会

(右) 読書週間講演会「本を届ける-出版の世界と図書館」

に美しく生まれ変わる予定である。

また、新西図書館は西神中央センターエリアの再整備に伴い、西区民センター1階から美賀多1丁目に芸術ホールと一体的に2021年度に整備される。

これらの図書館をどんな図書館にするか、どんな新しい機能を追加するのか、図書館基本計画を策定するにあたり有識者等の意見を聴いた。その中で、西図書館の現状の問題点として、「高齢者の居場所になっている。」「中高生など若者の来館が少ない。」「本離れが進んでおり、紙の本を読まない。」「子育て世代が気軽に立ち寄れない。」などがあげられた。

これらに対して、「本を借りなくても居心地のいい空間を作る。」「おしゃべりをしてもいい。飲食物を持ち込んでいい。」「お母さんが子供を連れて来て話してもいい。」「本を中心に人が集い、賑わいが生まれる場所にする。」など、新たな視点からさまざまな意見が出された。

新しい図書館は、図書館基本計画（案）に対する市民の意見募集（パブリックコメント）で寄せられた意見を参考に、空間演出によりゾーン分けを行い、個々のニーズに応じて立ち寄りやすくすると同時に、世代を越えた交流もできる、シビックプライド（住民の誇り）の象徴となるような美しい図書館にしていきたい。

（総務課担当係長）

## （仮称）新三宮図書館・新西図書館の整備検討会の開催と基本計画の策定

総務課担当課長 鎌田 寛子

### 1. 整備検討会の開催まで

新しい三宮図書館は2025年度、西図書館は2021年度の開館を目指している。各館がどのような図書館であるべきか、コンセプトや基本方針等について有識者等から幅広くご意見をいただくため、それぞれ整備検討会を開催することとした。その検討の内容やアンケートの結果等を参考に教育委員会としてそれぞれの基本計画案を作成し、パブリックコメント（市民意見募集）を経て基本計画の策定に到る。

検討会を7月から9月の間に、3回程度開催するとして準備にあたったが、最も心を砕いたのは委員の人選である。図書館学又は図書館行政に明るい方、建築分野の方、子供や青少年を取り巻く環境に詳しい方、まちづくりやコミュニティづくりに詳しい方、そして実際のその館の状況を知るボランティアの方にそれぞれ就任をお願いしたところ、快く承諾してくださり、有り難い限りであった。委員の方々は以下のとおりである。（敬省略・順不同）

#### （仮称）新三宮図書館整備検討会

小林 圭子	三宮図書館ボランティア
佐藤 翔	同志社大学准教授
中井 孝幸（会長）	愛知工業大学教授
村上 豪英	神戸モトマチ大学代表
吉富 志津代	名古屋外国語大学教授

#### （仮称）新西図書館整備検討会

内橋 一恵	神戸常盤大学研究員
芝 和子	NPO ユースプラザ西 2009 理事長
則長 訓江	西図書館ボランティア
畑 友洋	神戸芸術工科大学准教授
廣岡 徹（会長）	兵庫教育大学教職大学院元教授
村岡 正和	株式会社神戸デジタル・ラボ取締役

一方、検討会での検討素材ともなるアンケートの実施集計であるが、三宮図書館については、以前に来館者のアンケートは行っていたので5月20日から6月19日までのネットアンケートのみ行い、340件の回答を得ていた。

西図書館については、6月12日から24日に図書館来館者へのアンケート、6月中旬から7月中旬に地域の方々へのアンケートを西区役所まちづくり課の協力で実施し、最終合計1,410件の回答を得た。その結果は、西区まちづくり会議でも報告した。

検討会は傍聴が可能である。それぞれの検討会に

は、定員には達しないものの、毎回数名の傍聴者を得た。三宮図書館の検討会は3回とも中央図書館で開催したが、西図書館は、3回目を西区民センター会議室で開催した。

### 2. 整備検討会の内容とまとめ

1回目の検討会への提出資料として、事務局からそれぞれの館の現状やアンケート結果、基本方針素案を提出した。2回目の検討会では、前回議論のキーワード整理図や、前回話題になった機能について先行自治体の図書館事例を写真を交えて紹介した。委員の方々からは活発で多様な意見が出され、子供や青少年・子育て世代重視、ダイバーシティ対応、ハード面だけでなくアクセシビリティ追求、災害時対応、シビックプライド（住民の誇り）となること、複合施設のメリット追求など、事務局提示の素案内容を超越する提案がなされた。

3回目には、2回の議論を踏まえた「検討会のまとめ」（案）とともに、今後事務局が作成する、基本計画の核となる基本方針案、コンセプト案も提示し、意見をいただいた。

「検討会の内容のまとめ」については、最終的にはそれぞれの会長と細部を詰めたものを基本計画（案）の中に掲載した。

### 3. 基本計画（案）の作成とパブリックコメント

9月28日に、新三宮図書館・西図書館、それぞれの基本計画（案）をホームページ等で発表した。

三宮図書館のコンセプトは「美しい知と情報のゲートウェイ」とし、美しく快適な読書空間を作ることや、障害者、高齢者、幼い子供連れの方、外国人など多様な人々の図書館利用のアクセシビリティに配慮すること等、6つの基本方針をあげた。

西図書館のコンセプトは「新しい出会い、新しい発見がある、本の『広場』」とし、青少年や子育て世代が利用しやすいこと、市民の暮らしと生涯にわたっての学びを支えること、西区の歴史や文化、魅力を伝えることなど、5つの基本方針をあげた。

10月2日から23日、パブリックコメントを実施し、それぞれ20数件の意見をいただいた。10月末現在、それらの意見に対しての市の考え方及び、それを踏まえての基本計画を策定中である。

今後、それぞれの図書館の設計・施行する民間業者には、この基本計画に沿った提案をすることが求められる。一方、事業の進捗にともない、より具体的なサービス計画も必要となる。今後も市民からの意見を求めながら、新しい図書館をどのように運営していくのかを検討していく。

## 書店・出版界との連携イベントの開催について

西山 智子

平成30年度中央図書館読書週間行事として、講演会「本を届ける—出版の世界と図書館」を10月21日（日）に開催した。

これは、第5期図書館協議会の総括でもあった、読書する環境を現在そして将来に向けて守り保ち続けることを目指すべき、という提言に基づき、図書館が取り組む書店・出版界との連携イベントの第1回である。図書館協議会委員の湯浅俊彦氏（立命館大学教授）のご協力の下、開催する運びとなった。

壇上には湯浅氏を含め4名の方をお迎えした。

第1部は「神戸で本を作るということ」というテーマで、地元出版社のエピック社代表取締役・奥間祥行氏に本の企画の立ち上げから、編集、製作、販売に至るお話をいただいた。数ある事象から見逃げせないものを選び出し、伝えなければならないことを形にする出版の使命についてのお考えは非常に明確で、熱いお気持ちに会場も触れることができた。

第2部は、トークイベント「本の未来を拓く書店と図書館」として、さらにお二人、ジュンク堂書店難波店店長の福嶋聡氏と神戸新聞社文化部部長の松岡健氏にパネリストとしてご登壇いただいた。福嶋氏にはジュンク堂書店創業者の開業に至るお気持ちや、阪神・淡路大震災時にお客様から掛けられた印象深い言葉を通して、本がどれだけ人から求められるものであるかをお話いただいた。さらには実は図書館と書店は敵対しないことや、各々の利点を生かした共同イベントの可能性、ともに果たすべき本の魅力や出合いの喜びを伝える役割についても力強いご教示をいただいた。松岡氏は本のユーザーとしての立場に立って、ご自身あるいはご自身のお仕事として本が使われたエピソードを紹介される中で、時代の新しい空気感に溢れる新刊書店と、知を蓄積する役割を担う図書館の特性にも言及して下さった。全体を通しての聞き手、コーディネーター役を担っていただいた湯浅氏は、それぞれの分野から普段なかなか聞くことのできない率直なご発言を引き出してくださった。

参加は55人。アンケートによると購入も含めて普段から本を手に取り、読書が好きな方が多く集まってくださった。貴重なよい機会だった、今後もこのようなイベントを期待するというお声もいただいた。この先も今回に続くイベントを計画し、図書館と書店・出版の連携を模索する中で、神戸に住む皆さんが、永きに渡って読書を楽しむことのできる環境ときっかけをご提供できればと、今回携わった担当としても、とても楽しみに考えている。

(企画情報係)

## 平成30年度漢籍担当職員講習会（初級）を受講して

本田 明香

10月1日（月）から5日（金）まで、京都大学人文科学研究所附属東アジア人文情報学研究センター（京都市）にて、漢籍（同研究所の定義では主に1911年の辛亥革命以前の中国人による漢文体の著作）の目録作成を習得する講習会を受講した。

漢籍の概要や漢籍に含まれる和刻本・朝鮮本、全国漢籍データベース、漢籍に関するウェブサイト、目録を作成するために必要な工具書（字書・辞典、目録、歴史年表、百科全書等）についての講義を受け、同研究所が所蔵する漢籍を実際に手に取り、備付けの工具書や講義で紹介されたウェブサイトを用いて目録カードの作成や漢籍データの入力を行った。約9時間の実習で6件のデータを作成したが、行書や篆書で書かれた著者や出版者・出版年等の解読や、刊本（版本を使用）か活字印本かなど刊行形態の判別の仕方、書名や著者等の書誌的事項を判断するために序文や跋文なども含めた書物全体の吟味の仕方、繁体字で記述する等の特有の規則がある目録の書き方など、講習会の職員の方に色々ご指導いただいて作成することができた。最終日に実習で用いた漢籍の目録作成のポイントが解説され自分が作成したデータの出来具合を確認できたが、訂正すべき箇所が多くあり漢籍の目録を正確に作成する難しさを痛感した。

今回習得した知識や経験を館内で共有できるよう努めたい。  
(資料係)



実習風景と講習会場（許可を得て撮影）

## －「人にやさしく みんな明るく ～認知症なんてこわくない」展－

今年4月の「認知症の人にやさしいまちづくり条例」の施行を期に、介護保険課と初めて連携し、「認知症」関連展示を行った。条例の概要や政策等を掲示し、広報パンフレット類を展示した。また認知症サポーター養成講座や相談窓口などのチラシ配布も行った。貸出用として「認知症」が理解できる本、健康維持に役立つ本、「介護」を題材とした手記や小説、児童書など約130冊を用意した。パネルの記事や本を熱心に読まれている方が多く、年齢にかかわらず、関心の高い身近な問題であることがよくわかった。今後も他部署と連携し、超高齢社会に向けた情報発信を行っていきたい。

(調査相談係長・大黒)

## －北図書館北神分館の移転について－

藤原市の北区役所北神支所が北神区役所となるにあたり、現在入っている北神中央ビル内での拡張を行うこととなり、同じビルに入っている北図書館北神分館の移転・拡張が決まった。

北神中央ビルの隣にある商業施設エコー・リラン館4階に移転し、図書館部分の整備が行われる。設計は槻橋修氏が担当している。

面積は現在の931㎡から1,320㎡となり、蔵書数も現在の約10万冊から約12万冊となる予定である。セミナー室を設け、Wi-Fiが利用できる席、データベース端末、書籍消毒器等の設置も計画している。

名称も北神図書館となり、平成31年4月下旬の開館を目指して、準備作業に入っている。

(総務課担当係長・村井)

## －夏休み期間の行事－

中央図書館では、毎年恒例の「夏休み特別おはなし会」や「こうべママのこわ～いおはなし会」のほか、工作教室「カスタラッコを作ろう」や「調べて作るふしぎ新聞」などの行事を開催した。公民館との共催で行った「バックヤード親子見学ツアー」では、親子19組41人が館内見学とブックコーティングを体験。保護者に手伝ってもらいながらコーティングした本を笑顔で持って帰る子供の姿が見られた。

地域図書館では夏休み期間中、図書館を身近で楽しく感じてもらえる企画を数多く実施した。特に参加・体験企画として「絵本作家 山本隊長と行く！ マリンスノー深海探検隊」(須磨)や、「垂水の浜の生き物とふれあおう！」(垂水)では自由に深海魚等の作品を作ったり、生き物を間近に触ってみたり、夏の季節ならではの行事を行った。また、「夏休みわいわい英語教室&夏休み読書会」(新長田)、「おた

けなおこ絵本コンサート」(兵庫)や「科学の不思議実験ショー&図書館おはなし会」「科学相談室」(西)では、英語や科学といったテーマで読書への関心を引き出すような行事も行った。その他「もっと本が好きになる！読書感想文講座」(東灘)、自由研究に役立つ資料展示など図書館の使い方を知り、調べ学習等に役立つ行事も企画した。地元の関係団体と連携し、地域の歴史を伝える「音で体感♪読み聞かせ・神戸空襲の記憶」(兵庫)や地元の中高生も参加した「イチオシ！中高生読書交流会」(北)を開催した。

(市民サービス係・三木、総務課担当係長・幣)

## －梶原由佳氏講演会「カナダと日本をつなぐ『赤毛のアン』～作者L.M.モンゴメリの旅路～」－

10月8日、カナダ在住でトロント公共図書館オズボーンコレクション室勤務の梶原由佳氏を迎え、ご講演いただいた。梶原氏はモンゴメリ研究者としても知られている。講演会では、モンゴメリがとてもおしゃれな女性だったこと、どんな結婚生活だったかなど、モンゴメリの縁者から聞かれたことも交えてお話しいただき興味深く伺った。見せていただいた数多くのスライドも、現地カナダにお住まいの梶原氏ならではのものだ。50代以上の女性の参加が多く、モンゴメリの生涯や人柄、作品の背景を知ることができた、作品を読み返してみたい、プリンスエドワード島に行ってみみたいなど、満足の感想を多くいただいた。参加者69人。参考図書展示55冊。

(利用サービス課担当係長・阪本)

## －手帳－

会議	7.5～7.6	政令指定都市図書館長会議
	7.26	近畿公共図書館協議会理事会総会
	7.31	神戸市立図書館図書館協議会
	10.2	兵庫県立図書館協議会
	10.3	決算特別委員会(局別審査)
	10.26	中央図書館職員安全衛生委員会
研修	9.4～9.7	新任図書館長研修(須磨図書館)
	10.18	館内研修(「図書館利用と著作権」)
行事	7.30	「係生徒の集い」ビブリオバトル
	9.14	神戸子ども文庫連絡会交流会
	10.21	講演会「本を届けるー出版の世界と図書館」
その他	9.11	「北神図書館」記者発表
	＝台風による閉館時間変更と臨時休館＝	
	7.6	北図書館及び北神分館 (台風7号により18時に変更)
	9.4	地域図書館全館休館(台風21号)
	9.30	地域図書館全館休館(台風24号)